

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093300079		
法人名	社会福祉法人 北筑前福祉会		
事業所名	宗寿園グループホーム愛々		
所在地	福岡県宗像市稲元5-2-2		
自己評価作成日	平成29年11月22日	評価結果確定日	平成30年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成29年12月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

平成29年5月に(ユニット増床)2ユニットになり、入居者様18名になりました。周囲には学校、体育館、公民館などあり、地域の自治会に加入し、民生委員さん、地域の方達の協力で行事へ参加しています。地域に密着した事業所として、同敷地内にある福祉センター(同法人運営)を交流の場とし、地域の方の舞踊やカラオケなどを見学に行き楽しんでます。「素敵な笑顔で和気愛々」を運営方針として自宅での生活と同じように毎日の食事作り、外出、趣味活動などを積極的に取り入れ、いつでも住み慣れた地域で暮らしていけるように支援しています。入所しても、ご家族、近所の方との繋がりを大切に(外出、外泊、茶話会)、年2回家族会を開催、入居者様、ご家族、職員との交流の機会も多く信頼関係を築いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「宗寿園グループホーム愛々」は宗像、福津市で複数個所の介護施設を展開する北筑前福祉会が運営しており、平成20年11月に開設された。元は1ユニットだったが、平成29年5月には新ユニットがオープンされ2ユニットになった。男性利用者、若年性認知症の入居者もいるが、医師と相談しながら笑顔で生活できるような環境づくりに努力している。又男性職員が増え活気があふれてきた。同敷地内にある福祉センターでは地域の方との交流も盛んにある。家族会でバスハイクをしたり、2ユニット合同の食事会を行い、50名ほどの参加があり、利用者、家族、職員との交流の機会も持っている。年間の研修計画を作り法人の施設で勉強会を行い、職員は研鑽を積んでいる。今後も地域に密着した事業所として益々期待される事業者である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○経営理念である「共生」を基本とし「素敵な笑顔で和気愛々」を運営方針に掲げている。	法人の基本理念は立ち上げ時に皆で考えて作り事務所に掲げてあり、ミーティング時振り返り確認し共有している。事業所は理念を基本として「素敵な笑顔で和気愛々」を運営方針に掲げている。理念をもとに法人が立てた目標に対し各事業所で目標を立てる。職員各自も目標を立て、年間2回管理者が面談し目標に対しての取り組みについて話し合う。管理者と職員は理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○近隣の店への買物を行っている。 ○隣接する老人福祉センターを利用する事により地域住民と接する事が出来る。 ○地域の行事見学(運動会、敬老会等) ○地域の自治会への加入(GHとして)	併設のデイサービスに地域ボランティアの踊り、歌、ハーモニカ、手品などの訪問がある。幼稚園児の歌の訪問又中学2年生が「わくわくワーク」で5日間の訪問がある。福祉センターで敬老会、夏祭りなどさまざま催し物があり、夏祭りでは職員が焼き鳥、たこ焼き、焼きそばなどを出店した。地域密着型サービス事業所連絡会に入っており又福祉センターにポスター、回覧などを置き地域とのつながりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○法人主催の事例発表の場があり地域の方や、他施設の参加も多い ○他事業所(施設)見学会の実施 ○他施設の紹介や、情報を提供している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	○推進委員さんよりの助言、地域の子供たちとの関わりの橋渡し(民生委員、自治会長さんの協力) ○声かけにより小学校の体力測定、学習発表会の見学に行っている。	運営推進会議は二か月に1回行われている。民生委員、地域代表、宗像市職員、家族などの参加がある。民生委員より敬老会、小学校の催しなどの情報もらい、小学校の体力測定、学習発表会の見学に行った。推進委員より事故報告の取り扱いなどの助言をもらい改善し、今後の意識付けになった。議事録は玄関先に随時設置し、大事な事には口答で伝える。推進会議においての意見をサービス向上に活かしている。	議事録は玄関先に置いてあるとの事だが、今後請求書などと一緒にご家族に議事録を送付するようにしてみたらどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	○運営推進会議、地域密着会議を利用しながら協力関係を築いている。	運営推進会議に市から参加があり、相談は書面で連絡し、回答も書面で受け取る。包括支援センターへは空き状況を連絡している。地域連絡会議に二か月に1回参加し協力関係を築いている。介護保険の申請にはケアマネジャーが直接出向いている。稲元地区には包括支援センターがないので、今後は市の包括支援センターとの関係もより深く築いていこうと思っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○研修会等に参加し意識を高め、日頃より話し合いをし、職員間の連携を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	新ユニットは自動ドアになっている。2階の以前からあるユニットの施錠はなくチャイムが鳴り、音で職員が気づく。ナースコールを押すことができない利用が3名ほどおり、センサーを設置している。新ユニットに帰宅願望の強い利用者がいるが、家族と相談の上、窓にストッパーを利用している。法人内に相談委員会などを設置し、地域密着部会での勉強会もあり、職員全員が研修を受け身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

H29自己外部評価表(宗寿園GH愛々)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○研修会に参加し、支援のなかで気付いた事があれば、その場で話し合うようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○成年後見受任資格を有する職員が研修に参加している。必要とする方には、すぐに対応出来るように支援体制をとっている。	成年後見受任資格を有する職員が外部研修に参加している。事業所代表者は法人内の勉強会及び外部講師の勉強会に出席し内部での伝達もおこなっている。入社時には管理者が制度の説明を行っている。過去に1名成年後見人制度の利用あり。制度についての理解は管理者や職員もできており、必要とする利用者にはすぐに対応できるように支援体制を取っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○見学、電話での問い合わせが気軽に来るように窓口を設けている。利用者、家族等が不安や疑問に思う点については、十分な説明を行ない理解、納得を得た上で契約に及んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○運営推進会議を年6回開催し家族に参加して頂き意見、要望などを伺っている。また、家族会を年2回開催し懇親会を兼ねて意見の交換会もされている。頂いた要望、意見には迅速に対応している。玄関に意見箱を設置している。	二か月に1回の運営推進会議には、家族に参加してもらい意見、要望などを伺っている。推進会議のなかで熱中症対策の勉強会を行った。社会福祉センターで2ユニット一緒に家族会を年2回開催し懇親会も兼ね意見の交換がされている。玄関に置いてある意見箱内には意見はないが、訪問時に口答で言われたことを職員が書きとめ、ミーティング時に職員間で話し合い、意見の反映に努めている。毎月事業所から写真、外出時の様子などの便りを出す。便りには運営推進会議時のお願いなどを担当者が赤字で書き添えるようにしている。	外部評価アンケートの回収率もよく、利用者、家族などの意見もよく吸い上げられているが、法人からアンケートを送付するなど一つの案として行ってみたらどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○毎月のミーティングや年1,2回のフリートキング等を実施し意見を述べる機会を設けている。常勤、非常勤一緒に、また1階と2階の職員合同で月担当を決め行事等の企画にアイデアを出し合い全職員になげかけている。	毎月のミーティング、及びフリートキングで意見を述べる機会がある。無記名で要望を募り、要望を取りあげて話しあっている。各ユニット毎のミーティングで意見を出し、エアコンクリーニング、床のワックスなど業者に頼むことができた。各フロアで行事担当を決めアイデアを出しあう。居室担当は便り、ケアプランの原案作り。業務担当は食材の購入、在庫管理、行事プランなどを行い、運営に関する職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○年2回自己評価の場が設けられており各自、目標を掲げ、一人ひとりが向上心を持って働けるようにつとめている。		
	(9)	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	○平等な人選が行われており、差別等はない。採用された職員は本人の持つ能力、特技等を發揮出来る場をもち活躍してもらっている。資格取得、研修等に積極的に取り組んでもらい質の向上にも力をいれている。	22歳から62歳まで幅広い年齢層があり、各ユニットに男性が一人づついる。パート職員は8人おり、ベテランと新人職員も協力してケアに取り組んでいる。一時間休憩もあり休める部屋もある。各種の委員会活動などで体を動かすこと、食事作り、キーボード演奏、歌など特技を生かしている。認知症の実践者研修を6日間受け業務扱いになっている。	

H29自己外部評価表(宗寿園GH愛々)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	○法人の基本理念に「人権を尊重し、人としての尊厳の確保」を掲げており、ご本人の人権を尊重し尊敬の念を持って接している。職員に対しても人権教育や研修に参加してもらう事に積極的に取り組んでいる。	宗像市の人権対策課の職員を講師に招き、参加した職員が内部伝達を行った。11月には地域密着型の会で外部講師による研修を市役所で受けた職員が内部伝達を行った。福祉センターにはケアスクールがあり、人権教育などの勉強会ができる。法人の基本理念にあるように、利用者の人権を尊重し、尊敬の念を持ち職員は接している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○随時、研修や講演会の情報を掲示、回覧し、法人内外の研修を受ける機会が設けられている。(法人内にケアスクールを有する) ○資格取得に対する援助がある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○2カ月に一度「地域密着型サービス事業所連絡会」に参加しており、連携をとる機会となっている。 ○市内の権利擁護に関する団体に属し、ネットワーク作りを行っている。 ○勉強会にも積極的に参加している		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○管理者、ケアマネージャーが主となり、それまでの本人の生活背景を考えながら、本人の意思を尊重し話しをするようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○家族からは、十分に話しを聞き現在の状況を把握すると共に、思い・訴えを受け止めるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○状況に応じた支援が出来るようにアドバイスを行っている。 ○利用者を理解する為に、カンファレンスを密に行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○一方向の関係で支援するのではなく、利用者から学ぶ姿勢を忘れず信頼関係を大切にしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○家族からの思いを伺いながら、職員の思いを伝え、一緒に本人を支えていくという協力関係を作っていくように努めている。		

H29自己外部評価表(宗寿園GH愛々)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○電話・年賀状など、良い関係を継続出来るように支援している。 ○遠方のご家族とFAX、メールでやり取りしている。 ○外出時等家族の協力で、自宅に戻られた時に近所の方と茶話会など楽しませている。	携帯電話を所持している利用者が二人おり、時折自分で電話をしている時もある。年賀状も写真付きで出している。事業所職員は遠方の家族にはメールでやり取りを行っている。家族と一緒に外出し自宅に戻られた時、近所の人と茶話会などを楽しませている。各ユニットに1名づつお正月に家族とともに自宅に戻る利用者がある。お墓詣りは家族が対応している。職員と一緒に自宅に帰った事もある。近所の方の訪問もあり交友を続けている。本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所の継続の支援を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○家事活動や外出の機会に体験や思いを話していただき関わっている。外出・買物・レクを一緒に行う事により良好な関係を築いている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○転居先への面会、死去された際のお通夜又は葬儀への参列を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○担当者会議や会話などを通し暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は本人の普段の言動を観察、家族と情報交換しながら検討している。	入所時に、センター方式の書類に家族に書き込んでもらい、家族に聞き取りを行いながら残りを書き込んでいく。できる事とできない事を24時間シートに書き込み、変更のあった時は赤字で追記する。食事、服薬、排泄などの日常生活の様子を3×3と呼ばれている用紙に担当者が記録し職員全員で一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努めている。アセスメントシートはケアマネジャーが管理し、一年に1回見直しをしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○入所時にはセンター方式の用紙に家族に記入していただいている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○職員間で情報交換を行いながらバイタルチェックや活動、食事量、排泄等を通して変化がみられていないか把握に努めている。 ○		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○月1度のミーティング等、又適宜カンファレンスを行い、各利用者の状態、状況話し合いその結果をふまえてケアマネが計画を作成している。必要に応じて家族と担当者会議を実施している。	担当者がモニタリングを行い、プランの素案を作る。担当者会議は3か月又は6か月に行い、家族の出席は必ずある。更新時の医師の意見書、定期受診時のようす、退院時にはケアカンファレンスに出席するなど、すべてケアプランに反映させている。利用者ノートに、病院受診は「ブルー」夜勤は「赤」大事な事はマーカーで印し、日々の記録を書く。ケース記録にはケアプランの上に日々の記録をつけ、プランと連動させている。	

H29自己外部評価表(宗寿園GH愛々)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○ケース記録の他ノートでの伝達、モニタリングのほか必要時(心身の変化)にはカンファレンスを行い見直しに努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○一人ひとりのペースに合わせたり、その日の天気により外出など利用者の状態を見ながらその都度対応を考え取組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○外出(買物、散歩、地区の行事見学)を行いながら現有能力を活用する事に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○従来からの本人、家族とかかりつけ医との関係を尊重し、受診を継続していただいている。状態が変化した場合には家族へ報告し主治医へ相談していただいている。発熱や食欲不振・便秘など体調不良時には家族へ報告、受診を通して医師へ相談を行っている。状態によって薬に関する内容が含まれる時には、直接相談し指示を受けている。認知症による精神症状等が目立ってきた際、家族と相談して専門医への受診を勧めている。	協力医療機関へ家族、又はグループホームの看護師が一緒に行く。家族と一緒にいったときは家族から聞き取りを行い、家族が持ち帰った薬を預かる。受診時の様子は利用者ノート、ケース記録に書き込み全職員で共有している。歯科訪問は週1回ある。皮膚科などの他科受診は家族に対応してもらい、どうしても家族の対応が難しい時は職員が代行する。受診結果はその日のうちに家族に連絡を行なう。協力医療機関は精神科がないので、精神症状が目立ってきた際には家族と相談して専門医への受診を勧めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○看護師へ連絡・相談・報告を行い、連携を図っている。 ○かかりつけ医と連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入院時は日常の情報を提供し、主治医や病院と連絡を密にとり、早期退院に向けて話し合いを行っている。(カンファレンス参加)		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○医療機関と連携を図り、事業所で出来る範囲での対応を行っている。	看取りは現在行っていない。本人、家族と話し合いを行い、重度化した場合は、事業所に対応できるぎりぎりまで居たいとの希望がある。医師会の病院には緩和ケアがあり、医療機関との連携を図っている。法人で勉強会もっており、12月には看取りの研修を受ける。	

H29自己外部評価表(宗寿園GH愛々)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○緊急時のマニュアルを作成し、目のつくところに用意している。 ○定期的に勉強会に参加し実践している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○避難訓練を実施している。消防署、運営推進委員さんと共に夜間想定避難訓練を実施している。 ○夜間、宿直職員を置いている。	年2回消防署立ち会いの火災訓練があり、一回は併設事業所合同の日中訓練を福祉センターで行った。夜間想定訓練は事業所で行なっている。福祉センターは地域の避難場所になっている。訓練には運営推進会議の委員、家族の参加もあった。法人全体で食べ物は備蓄しており、水は事業所で備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○尊敬の念を持ち、その方に応じた声掛けを各自、実践している。又、利用者の立場に立って考えプライバシーが守られるよう気をつけている。	介護委員会で接遇のマナーを学んでいる。トイレ誘導時の声かけにも利用者の立場に立って考え声かけを行い、職員同士でお互いに学びあっている。個人情報利用の写真及び事例検討の了解はきちんと取っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○出来るだけ1対1で話が出来る時間を作り、本人の思いが伝えやすい場を作っている。選ぶことが難しくなってきた方へ2つの中からどちらがいいか尋ねたり工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○一人ひとり体調やペースを見ながら休息をとったり、家事を手伝ってもらったりなどしている。どのように過ごしたいかなど本人に尋ね、出来るだけ希望に添う様な過ごし方の提案もしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○出来るだけご自分で整容してもらえるよう鏡の前に立っていただき、温かいタオルを渡したり髪をといてもらったりしている。毎朝お化粧の声掛けをし、おしゃれに対しての意識を持っていただいている。外出時には一緒に服を選んでる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○全利用者の参加は困難であるが、個々の出来る事を職員が把握して、食事の準備、片付けに参加して頂いている。又、季節に合わせて春は花見弁当作り、冬は鍋など行う。梅ジュース・干し柿作り等在宅時と変わらない物を提供し、味覚や懐かしさを回想し、満足して頂いている。 ○月1~2回程個々の好みに応じて外食を行っている。 ○日曜日の昼食は食べたい物を尋ねてメニューを決め、買物から食事作りまで一緒にしている。	日曜日は買い物、食事作りまで利用者と一緒にいる。平日の朝、夕は材料が施設厨房からきて、職員が調理している。誕生日、クリスマスなどは利用者と一緒にケーキの飾りつけなどを行う。月1~2回は、回転ずし、鍋などの外食レクを行っており、寿司の出前を取ることもある。おせち、年越しそば、雑煮などは職員が材料を購入し調理する。調査時は忘年会ですき焼き鍋であった。野菜などを利用者が切り、職員と一緒に準備し、3~4人で鍋を囲みノンアルコールビールで乾杯し和やかに食事を楽しまれた。	

H29自己外部評価表(宗寿園GH愛々)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○食事・水分共に摂取量をチェックし記録している。食欲のない方、摂取量が少ない方へは、ご本人が食べやすい物、食べれる物を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○ご自身でできる方以外はリビングの洗面台に歯ブラシを置いて毎食後声掛けから、見守り、一部介助の方まで対応している。義歯装着者には外していただきブラッシングや夜間入れ歯洗浄剤にて除菌洗浄している。個々の歯ブラシ等も毎日殺菌洗浄している。 ○週に1回訪問歯科を利用し口腔ケアに努めている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○トイレで排泄が出来るように誘導している。(必要に応じて排泄チェックを行っている)夜間も必要に応じて声掛け実施。入居後や退院後には、失禁や汚染の改善がみられる。	細かいチェック表は6名分ある。日中は9名のうち2名は布パンツのみの利用者があり、夜は声かけトイレ誘導する。夜のみリハビリパンツ使用の利用者もいる。自室にトイレがあり、それぞれのペースで夜間もトイレ排泄を基本に行っている。月1回のミーティング時に職員全員で問題点と解決策をケアマネジャーに提案し、ケアカンファレンスの用紙に書き込み、回覧し共有している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○お茶・オヤツ・食事作りに気を配り便秘の改善をしたり、工夫している。海草寒天ゼリーも提供している。 ○歩行する機会を作るよう努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	○夏場は入浴日を増やす等、出来る限り本人、家族の希望を聞くようにしている。本人のタイミングに合わせて入浴の声掛けをし、タイミングが合わない時は翌日にするなど安心して入浴して頂けるよう工夫している。	週2~3回で午後2:30からの入浴になっている。日曜日は希望により午前中も可能である。リフト浴槽と広めの普通浴槽があり、入浴の順番はそれぞれにあわせてきめる。皮膚の状態を観察し、ボディソープも変えるなど、安心して入浴を楽しめるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○ケアプランに準じて休息の必要な方へはその都度休息を促している。その他の方に対しても活動の後や本人の様子を観察しながら休息を促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○申し送りカルテ等を職員が把握して理解に勤めている。 ○利用者ノートを活用し、主治医からの指示や報告を周知、把握している。 ○薬情ファイルを作り個々の内容、変更など確認してから与薬している		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○それぞれの好きな事を職員が把握して趣味などが継続的に行えるように支援し、ご家族の為に作った作品をプレゼントするなど本人の意欲を高めている。		



H29自己外部評価表(宗寿園GH愛々)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○「買物に行きたい」と希望があればその都度出掛けられるようにしている。又、ご家族にも外出をお願いするなどして可能な限り外に出れるように努めている。 ○隣接する市民公園への散歩や花見に行き、季節を楽めるような外出を行っている。	なるべく外出するようにしている。近隣のデイリーストアーには徒歩で行く。初詣、桜花見、山笠の神輿見物、紅葉鑑賞、外食レクなどもあり、年に7~8回は全員で外出し、季節を感じ楽しめるような外出を行なっている。墓参りなどは家族が対応している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○数名だが、ご自分でお財布を持ち、ご家族、職員と一緒に管理している。外出時には、ご自分で支払いされ出来る事を継続していただけるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○電話の希望がある方は電話される。ご家族や本人の要望から携帯を所持している方もおられ、時折ご自分で電話をかけることもある。遠方のご家族には手紙を出されたり届いた手紙の返事を書かれたりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○不快感や混乱等をまねくような空間にしないように努めている。 ○季節に応じたディスプレイ(利用者で制作したもの)をリビングに装飾している。 ○居室扉に手作りの表札を飾り、自室が分かりやすいよう工夫している。	東向きリビングの窓からは山が見え、明るい光が惜しみなく注がれ、穏やかな空間を作っている。利用者と一緒に制作した季節のディスプレイをリビングに装飾している。リフト浴槽と大きめの普通浴槽があり明るく清潔に保たれており、車いす対応トイレもあり、安心して使用できる環境になっている。1階のユニットのリビングからは大きな幹の桜が数本見られ藤棚もあり春の訪れが待たれる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○居室でくつろぐ時間を大切にする為に目隠しとして入口に暖簾などしてプライバシーの配慮に努めている。 ○日当たりのよい場所に少人数で楽しめる場所を作っている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○使い慣れた物(タンス等)を持ち込まれていたり、テレビを設置されている方も居る。安全面を考え家具を動かしその都度、模様替えをおこなう。家族との写真を飾り安心して過ごせるようにしている。	ベッド、エアコン、クローゼットが備え付けてある。居室にはトイレ、洗面台が付いておりプライバシーに配慮された空間になっています。得意の編み物の手作り作品が部屋に飾られ、作品は「ちよこつと新聞」に掲載された。家族との写真を飾り安心して居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○理解の出来なくなった方には目に止まる程度の張り紙をしたり、ボタンなどの横に説明を少し書いたり工夫しながら理解しやすいようにしている。必要に応じてスケジュール表等を作成している。		